

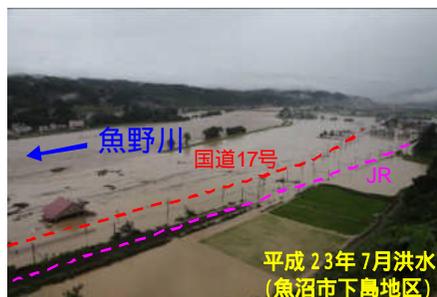
信濃川水系河川整備計画 骨子概要 (中流)

北アルプスからの清流を湛え、豊穡な礎をなす悠久なる大河信濃川を守り、活かし、未来に伝える川づくり

頻発する水害に対応した河川整備

基準地点で戦後最大規模の洪水を家屋浸水被害なく流下させます。

信濃川では、戦後最大の昭和56年8月洪水などにより甚大な被害が生じました。今後、約30年間で戦後最大規模の洪水を家屋浸水被害無く流せるよう整備を進めます。なお、近年発生した平成23年7月洪水が再来した場合でも被害の軽減が図れます。



適正な利用及び流水の正常な機能の維持

健全な水循環系を確保します。

河川の流水が本来有する機能が維持されるよう、関係機関及び水利用者と連携して適切な管理を行い、合理的な水利用等の促進を図ります。

また、豪雪地域の冬期間における住民の暮らしの利便性・快適性を確保し、消流雪用水施設の適切な運用を行います。



河川の適正な維持管理の実施

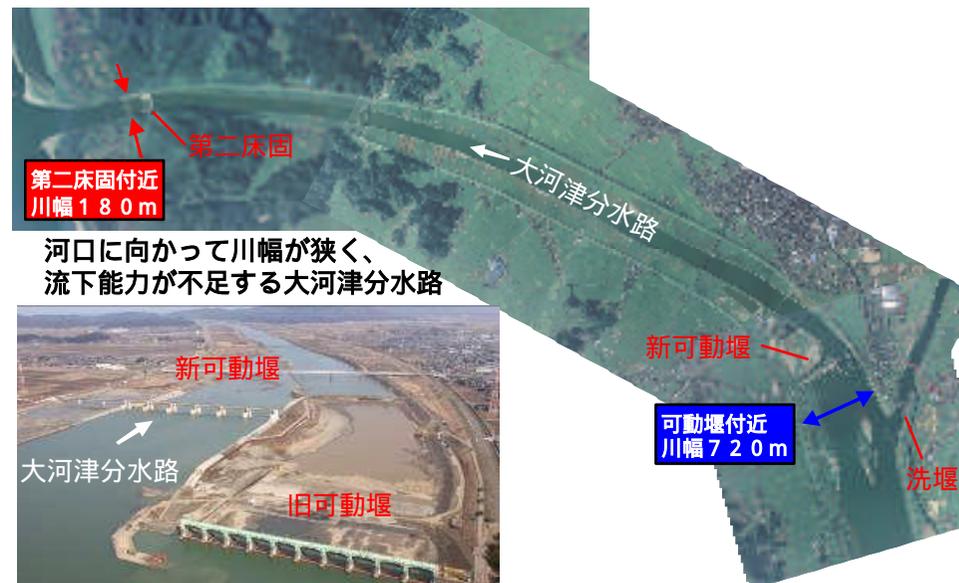
河川管理施設等を適切に維持・管理します。

洪水等に対する安全性の確保、河川環境の保全、適正な河川の利用の推進等を目的に、河川や河川管理施設の巡視点検を行い、計画的な維持管理を実施すると共に、堰等の施設を適切に操作します。

上下流バランスのとれた治水安全度の向上

治水の要である大河津分水路の改修を行います。

信濃川水系全体で上下流の治水安全度バランスを確保しつつ、治水安全度の低い箇所に重点投資し、安全を向上させます。とりわけ、最下流部に位置しながら、治水安全度が低い大河津分水路について改修を行います。



河川整備による自然環境の向上

生態系に配慮した河川整備を実施します。

ワンドや瀬・淵の確保など多自然かわづくりに配慮した河川整備を実施するとともに、魚がのぼりやすい川づくりを目指します。



高水敷幅による堤防防護の考え方

- 堤防を侵食からまもるために一定距離の高水敷幅を確保する必要がある。
- 現在の高水敷の幅と、必要高水敷幅の関係や高水敷の環境・利用状況の観点から護岸設置の考え方を定め、堤防防護の観点から安全性を確保できない場合には護岸により強固に防護する一方で、堤防の安全に支障がない場合には必ずしも護岸による防護を実施せず、川に自由な流れを持たせることで良好な河川環境の確保を促す。

